



加藤 元の



と暮らして
みませんか

14

欧米などの先進国では犬、猫、小鳥や馬、その他のペットを「コンパニオンアニマル」と呼んでいます。単なる愛玩動物でもなければペットでもない、人間の仲間、友達、家族、社会の一員であるという認識です。だから、番犬として屋外で鎖をつないで飼うのなら、犬を飼うのはよしでしょう。これでは、犬が不幸で、飼い主にとっても良いとは言えません。

犬の気持ちとしては、家族、仲間と一緒になければ、生きていけないものなのです。科学的な飼育方を知らなければ、飼い主や近所の人々ともいつの間にかうまくいかなくなってしまうのです。これ

コンパニオンアニマル

人間の仲間、社会の一員

では、お互い楽しくやろうという目的が損なわれてしまいます。

飼う前に、科学的な「犬の飼い方」と「犬の教育としつけ」という原則をよく知っておくことが大切です。しかし日本では「しつけや訓練」というと、自動的に「厳しく叱ること」と取り違えてきました。科学的な獣医学と習性行動学のやさしい原則を守るだけで、犬の健康が守れ、事故を予防し、犬が喜んでしつけを学んでくれるのです。だから、これらのことを、よく分かるように教えてくれる病院が良い病院なのです。

犬も猫も、われわれ人間と同様にどんな生きものも生まれてきたものは、必ず死ぬことで一生を終えるということです。寿命がくれば、必ずお別れをしなければなりません。

誰でも家族同様に暮らしていた動物を失えば、悲しく、痛ましいものです。しかしいつまでも嘆いていては、あなたの心身によくありません。亡くなった犬たちが望んでいるのは、すでに生まれてきている仲間の犬たちが、あなたのような素晴らしい飼い主に恵まれることです。

犬や猫は、もはや人間社会で生活することができない動物だということを理解してください。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2004年7月4日掲載》